

松浦魚市場の人手不足について

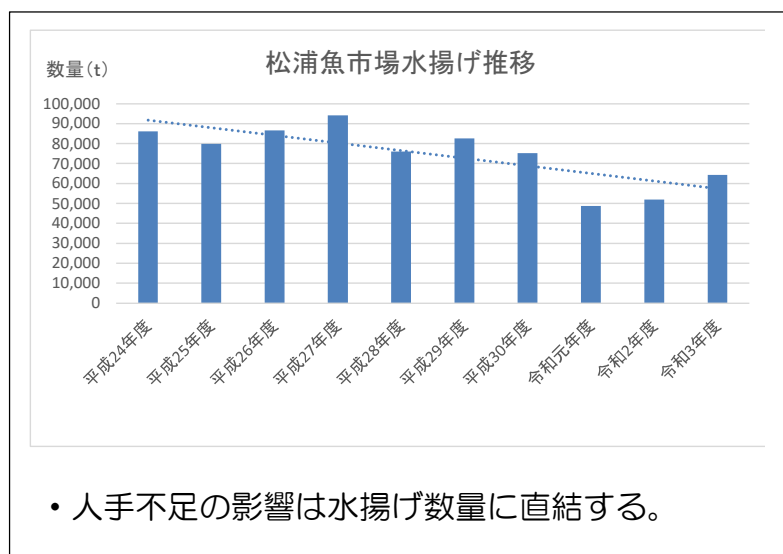
<現状>

○松浦魚市場は、日本遠洋旋網漁業協同組合（エンマキ）所属の大中型まき網漁業、イカ釣り漁業等の集荷基地として松浦市が昭和54年に開設した地方卸売市場である。

○陸揚げから出荷の過程において、魚の選別作業員が不足しており、近年は集荷が減少。

○改良型の魚体自動選別機を3基導入し、省力化に成功したものの、作業員の減少・高齢化は深刻。年々作業効率が低下している（待機船の増加、選別機をフル稼働できない等）。

○作業員数は10年前と比べ約3割減少。



<課題>

○慢性的な人手不足。

- 市外にもバスを出しているが、人材確保が難しい状況。
- 時化の日の対応（作業員には電話連絡している。）。
- AI選別の研究もされているが、量と魚種の多さで実装にはかなり時間がかかる。

○その他

- 防鳥対策。

<解決手法（案）>

○学生アルバイトを集める仕組みについて、デジタル技術等を活用。

（水揚げ情報等もあるので、運用にあたっては、他業者が入るのでなく、松浦魚市場で運用するような形が望ましい。）

OR4 は長崎県立大学と連携し魚市場のPR等に取り組んでいることから、学生からの協力が得られやすい。